

2017 北いわての魅力伝える広報誌



北いわて最前線

特集1

震災復興、
ともにつくる
新しいまち。



特集3

食産業を盛り上げて
北いわてをパワーアップ



特集2

台風10号の被害から
復旧へ向け全力で取組中



県北広域
トピックス
2017

県民の声を
県政に生かす。
希望郷いわて



三陸沿岸道路等の
工事状況



特集1

震災復興、ともにつくる新しいまち。

東日本大震災津波から6年。平成28年度は、岩手県東日本大震災津波復興計画で「本格復興期間」と位置づけられた3年間の最終年度です。更なる展開に向けて、変わりつつける北いわての復興の動きをお知らせします。



地図 MAP

社会資本等の 復旧・復興の状況
【平成28年度完成、進行中の事業】

凡例

- … 国が主体の事業
- … 県が主体の事業
- … 各市町村が主体の事業

※平成27年度までに完成済の事業については記載していません。

洋野町 防潮堤の整備や住宅地・県道の地盤かさ上げで、八木地区を守る

津波で、大きな被害を受けた洋野町種市の八木地区を守るため、防潮堤の整備と宅地の地盤かさ上げ工事が行われています。八木港は、外海に直接面しているため、もともと波が高い場所でした。震災では、八木駅を中心とした海沿いのエリアが浸水し、甚大な建物被害を受けました。

そこで県は、八木地区の北側を浸水被害から守るため、平成24年度からJR八戸線と県道八木港線の間で新しい防潮堤の建設工事をスタート、間もなく待望の完成を迎える見込みです。防潮堤の長さは延長約420m、海拔12m。水門1基と開閉によって自由に往来ができる陸間(りっこう)を北と南に1基ずつ設置しています。八木地区は、明治や昭和の大津波でも被害を受けたところ。家を移転するなど、地元のみなさんの理解と協力があったからこそ建設することができた防潮堤は、これから命と財産を守る大きな使命を担います。



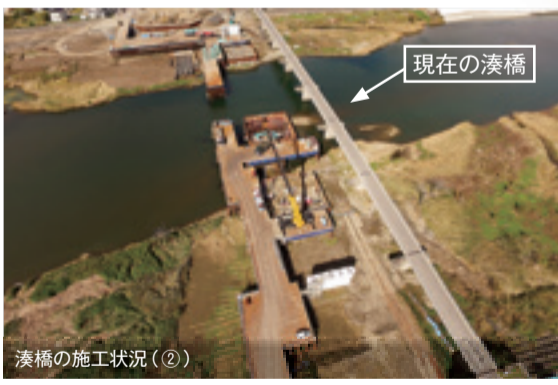
八木地区の南側では、洋野町が宅地の地盤かさ上げ工事を施

久慈市 堤防のかさ上げで津波から町を守る 久慈川地区、夏井川地区の防潮堤整備

津波を防ぐには、主に水門による方法と、堤防を高くして川に津波を受け流す方法とがあり、現在、久慈市の久慈川と夏井川で行われているのは後者。

工しています。これと連動し、県では、県道216号八木港線(延長500m)のかさ上げ工事を行っており、浸水に強い道路整備を進めています。かさ上げにより、八木港線は50cm〜2mほど高くなる見込みで、平成28年度中に供用開始となる予定です。

浸水被害を軽減するための防潮堤工事です。久慈川の工事区間は、長内町内の右岸1200mと湊町内の左岸800mの合わせて約2km。整備に



久慈市 久慈港の可能性も広げる湾口防波堤整備

久慈港湾口防波堤の整備は、国直轄事業として、平成40年度

よって堤防が約1m高くなるほか、堤防のかさ上げに伴う湊橋の架け替え工事も進められています。一方、夏井川の工事は大崎町内の右岸約800mの区間。工事によって現状より堤防が約2m高くなります。久慈川は、サケが遡上する川。遡上シーズンには水中の工事を控えるなど、漁業関係者と調整を図りながら作業を進めており、完成は平成30年度。夏井川は平成29年度の完成を予定しています。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号 平28情復、第1213号) この地図を第三者が複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。

完成を目標に工事が進んでい
ます。今年度、長さ1100mの南
堤は、本体となる39函のケーソン
据付が終了。長さ2700mの
北堤は、675m分のケーソン据
付を終えています(平成28年10
月末現在)。工事に当たる国土交
通省東北地方整備局釜石港湾事
務所久慈港出張所では、「湾口防
波堤が完成すれば津波被害を軽
減し、波が高いことで知られる
久慈港に静穏域が広がります」
と話しています。その結果、海洋
レジャーや養殖施設の整備など
も期待でき、同出張所では「今後、
地元の活動を支援していきたい」
としています。



野田村 まちづくりと一体となった
県道野田山形線の道路整備

国道45号を起点とし、三陸沿
岸道路野田一(仮)にも接続
する新しい県道「主要地方道野田
山形線野田工区(延長1.5km)」
の工事が進んでいます。
この県道は野田村の中心市街



地を通る県道29号が東日本大震
災の津波で浸水したため、その
浸水域を迂回するバイパスとし
て造られているもの。災害に強
いまちづくりの一環として村が
集団移転を進めた「新町地区高
台団地」の造成事業と連携して
行われており、平成29年度の完
成が予定されています。
開通すれば新町地区高台団地
への接続はもちろん、三陸沿岸
道路と国道45号とのアクセスが
飛躍的に向上するとあって一日
も早い供用開始が待たれます。

野田村 津波から村を守る防潮堤の
整備と防潮林の再生



野田村の中心部を守るため、
全長約2.6kmの防潮堤の整備
が進められています。整備には、
国土交通省三陸国道事務所が進
める、野田久慈道路浜山トンネル
(仮称)の工事で発生した土砂
を活用しており、平成30年度の
完成を目指しています。
また、震災前、十府ヶ浦海岸沿
いに続いていた防潮林の再生
(8.3ha)については、防潮堤の
整備進度に合わせて昨年10月か
ら着手し、現在、植栽地を造成
中。植栽は被災前と同様に塩害
に強いクロマツを主体とし、野田
村等とも調整しながら進める予
定です。

野田村 区域内の全世帯への
土地引渡し完了

津波で大きな被害を受けた野田
村の中心市街地。村では、浸水深
6mの被害を受けた場所をつない

でラインを引き、そのラインから海
側のエリアを災害危険区域に設定。
区域内の住居を高台へ移転させ
る防災集団移転促進事業と併
せ、区域指定を免れた村中心市
街地を復興するため、土地区画
整理事業を進めてきましたが、
平成28年10月、最後の世帯の引き
渡しが無事完了しました。

暮らしの再建には、生活の基
盤作りが急務であることから、
移転は地区全体の完成を待た
ず、街区(ブロック)ごとに実施。
そのため工事着手からわずか3
年で全ての世帯の引き渡しを終
えることができました。
一方、さらに安全なまちにするた
めに、災害危険区域は都市公園(津
波防災緑地)として整備中。普段
は憩いの公園として、万が一の際は、
津波エネルギーを吸収する緩衝地
帯として機能させる計画です。



野田村 三鉄北リアス線
「十府ヶ浦海岸駅」
3月25日開業

三陸鉄道北リアス線の「陸中野
田駅」と、「野田玉川駅」のほぼ中
間に、野田村では3駅目となる
「十府ヶ浦海岸駅」が完成します。
愛称は「はまなす香る砂浜」。



新駅は、無人駅で、ホームと待
合室を整備。村が建設費を負担す
る請願駅ですが、建設予定地の地
盤が弱く、事業費の増大が予想さ
れたため、一旦は建設を断念。しか
し、事業費の全額を、県から三陸
鉄道復興地域活性化支援事業費
補助金として交付を受けること
となり、工事が行われました。

新駅が設置されたのは、「の
だ砂まつり」の際に臨時駅を設
けていた場所で、集団移転した
米田・南浜高台団地の近く。長
年、常設駅設置を要望してきた
「野田村米田部落会」の米田忠一
会長は「地域をあげて開業を喜
んでいる。高校生や車を持たな
いお年寄りにとっては大事な生
活の足。十府ヶ浦海岸は堤防や
国道のかさ上げで以前のイメー
ジではなくなったが、新駅のす



普代村 「普代浜園地」に新しい
休憩所などが完成

岩礁が多い北三陸の海岸の中
で、美しい砂浜が続くとして人
気の普代浜。環境省と普代村で
は、この浜の賑わいを再び取り
戻そうと普代浜(普代浜園地)
の再整備を進めています。

園地の愛称は地元の中学生在が
名付けた「キラウミ」。面積は再
整備で以前より広くなり、約
2万㎡。芝を張り、園路を設けて
散策を楽しめるようにしたほか、
浜の脇を流れる普代川の北岸側
には、環境省が駐車場(49台)、
東屋2棟、温水シャワーとトイレ
がある休憩施設を設置。平成28
年7月に開所式が行われました。
また、川の南岸側(普代水門前ひ
ろば)には村が復興交付金を活
用してテラス付きの海産物直売
施設の建設を進めており、この
3月末の完成を目指しています。



特集2

台風10号の被害から 復旧へ向け全力で取組中

平成28年8月30日、東北地方太平洋側に台風10号が上陸しました。長く海上で停滞し巨大化した台風の破壊力は、東日本大震災津波の傷跡をえぐるかのように大きな爪痕を残しました。県北広域では河川や水路の氾濫による建物の浸水被害、電気・水道・通信等ライフラインの寸断や道路の決壊など、大きな被害が発生しました。一カ月後に国体を控えるなか、泥や災害ゴミの撤去、道路の応急復旧などに官民挙げて取り組みました。中心部は一見、落ち着きを取り戻しているように見えますが、復旧は続いています。



道路の応急復旧

台風10号により、山間部で河川に沿って走る道路等が、至る所で寸断されました。

久慈市と盛岡市を結ぶ幹線道路である国道281号線も、平成28年8月30日から久慈市大川目〜沼袋間(15・9km)が通行止めとなり、昼夜を問わず復旧作業



道路が決壊した国道281号線



片側交互通行の開始

業が続けられました。大川目〜戸呂町口間は9月8日に片側交互通行に。九戸インターを経由する久慈〜盛岡ルートが通行可能になりました。戸呂町口〜沼袋間は9月13日に通行止めが解除。大川目〜戸呂町口間の片側通行も9月30日、全面通行できるようになりました。

河川の流木や土砂撤去の 処理作業

県北管内の県管理道路は、野田村下安家地区を通る県道安家玉川線が12月20日から通行可能となり、通行止めはなくなりました。

県北地域では、台風10号により河川に流木が散乱し、土砂が堆積しました。春の雪解けや、次の台風、ゲリラ豪雨で、再度、被災しないよう、県北広域振興局では久慈、二戸両地域の河川で流木や土砂撤去等の作業を進めています。

このうち大規模な浸水被害をもたらした久慈川では、広範囲に渡って土砂が堆積しており、緊急度を総合的に判断しながら作

業が進められています。土砂や流木を撤去するには、撤去後の捨て場の確保が不可欠。住民のみならずの理解と協力を得ながら捨て場の確保にも努めています。

久慈川の土砂・流木撤去作業状況(久慈合庁前)

土砂撤去



流木撤去



「安家川サケ・マスふ化場」の 復旧に向けた取組と、管内ふ化場の連携によるサケ稚魚の確保

「つくり育てる漁業」を掲げる岩手県で、サケは重要な水産資源。一定の水揚げを確保するためには、ふ化放流事業が欠かせませんが、台風10号は各地のふ化場にも大きな被害をもたらしました。なかでも「安家川サケ・マスふ化場(野田村)」は、大量の流木や土砂で飼育池が埋まったほか、施設全てが浸水。ふ化場の生命線ともいえる地下水をくみ上げる電気設備も故障するなど、壊滅的な被害を受け



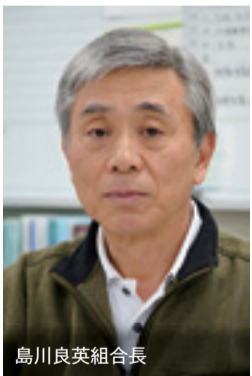
安家川サケ・マスふ化場の復旧作業

ました。秋の採卵シーズン直前の被害だったため復旧が間に合わず、平成28年度の採卵は、やむなく断念。東日本大震災でも被災した同ふ化場にとっては、悔しい二重被災となりました。

ふ化場を運営する下安家漁業協同組合の島川良英組合長は、「採卵して稚魚を放流しなければ戻ってくるサケもない。だから、今年の秋にはなんとしても採卵を再開したい。その一念で復旧作業を行っている」と話します。

再建にかかる費用は約7億円。県と野田村では、二重被災という厳しい現状を踏まえ、補助率をそれぞれ1/8から1/6に引き上げ、1/2の国庫補助とあわせ、漁協の自己負担を1/4から1/6に軽減しています。

安家川ふ化場の平年の稚魚生産数は約4300万尾。復旧後の新施設では、1割以上多い4840万尾の生産を目指しています。



島川良英組合長

「安家川サケ・マスふ化場」が台風10号の被害で今期の稚魚生産ができなくなったことから、「有家川」「普代川」「久慈川(大川目と小久慈)」の4つのふ化場が協力して、今年の春に安家川へ放流する稚魚の生産を行っています。

それぞれのふ化場では、自河川に放流する稚魚に加え、安家川に放流する分まで生産することにより、通常より飼育密度が高くなって稚魚の病気などが懸念されます。このため、県では、高い飼育技術を持つ安家川ふ化場の職員を1月〜3月まで各ふ化場に派遣し、適正な飼育環境を整え、稚魚の健康を保つための指導を行っています。

管内で放流される稚魚の約45%を生産する安家川ふ化場は、サケの回帰率も県内トップクラス。その高い技術を伝えることで管内全体のふ化技術を向上させ、回帰率をアップさせようという取組です。3〜5年後、多くのサケが戻ってくることを期待しましょう。



技術指導の様子

特集
3

食産業を盛り上げて 北いわてをパワーアップ

北いわての基幹産業である食産業。これをさらに盛り上げるため、県北広域振興局では関係機関と連携しながら、事業者の支援に取り組んでいます。

「二戸ぶつとべ」を 若者との協働で発信

二戸地域が誇るブランド肉「佐助豚」^{さすけぶた}「菜彩鶏」^{さいさいとり}「短角牛」^{たんかくぎゅう}。これらの魅力発信・消費拡大を目指す、二戸市内の飲食店の料理人の集まり「二戸若手料理人の会」が平成25年に開発したのが、「二戸ぶつとべ」です。

同会会長の濱豊さんによると、「二戸ぶつとべ」は、3種の肉を混ぜた合い挽き肉の肉だねの総称で、豚・鶏・牛（べこ）の頭文字を取って命名されました。同会では市外のイベント向け料理として、これを使った「二戸ぶつとべつくね串」を開発。ところが市民から「地元でも食べたい」という声があがったため、各会員の店でそれぞれオリジナルメニューを開発し、提供するようになりました。さらにその後、「家庭でも食べたい」という要望があったことから、平成27年に持ち帰り用商品として「ぶつとべウインナー」を開発。以来、市民はもちろん、観光客にも土産品として好評を博しています。



「二戸若手料理人の会」会長の濱豊さん



「ぶつとべウインナー」は「なにやーと」で販売中

二戸地域振興センターでは今年度、この「二戸ぶつとべ」のさらなる魅力発信と消費拡大を目指す。二戸地域在住・出身の若者に新メニュー開発や宣伝活動に取り組んでもらう事業を展開しました。これは「カシオペア魅力発信事業」の一つで、二戸地域内外の若年層に向けて、同じ若年層の目線で発信するのが狙い。若者たちには出店イベントの販売サポートで現場を知ってもらい、その後、若年層向けの新メニューやPR方法を提案してもらいました。県では、地域と若者が協働することで地域活性化を図っていきます。

カイゼン導入・定着支援で 事業者の生産性向上を実現

大手自動車メーカーが、生産性向上等の重要性を追究し、確立した、生産工程や作業の見直し手法「カイゼン」。県北広域振興局では同社に御協力いただき、平成26年度から管内の食品



八戸缶詰（株）久慈工場の沢里勇治工場長

関連事業者を対象に、製造工程へのカイゼン導入・定着支援を行っています。これは、同社による月1回・全6回（6か月間）の訪問指導を1単位としています。

八戸缶詰（株）久慈工場では、平成26年度下期、平成27年度上期、平成28年度上期の3期に指導を受けました。そのうち平成26年度下期には、チルド惣菜食品の製造のリードタイム短縮（最初の工程から最後の工程までの所要時間の見直し）をテーマに、「価値を生まない作業（ムダな作業）」の削減、工程の人員や作業方法の見直しなどのカイゼン活動を実施。その結果、作業効率が高まり生産性が向上し、年間で約400万円の経費削減に成功しました。またこのカイゼン活動では、従業員自身が「ムダ」に気づき、排除するための手法を学ぶ勉強会も行っており、人材育成にもつながっています。

「カイゼン導入後、従業員自ら『作業のムダ』に気づくようになりました。そこで、そのムダを排除するために製造ラインの一部を組み替えたところ、作業効

率がアップしました」と沢里勇治工場長は喜びます。

今後もカイゼンを継続することで、生産性向上を図るとともに人材育成や職場活性化を目指すという同社。一方、振興局でも、各事業者の生産能力向上や人材育成に向けた取組を引き続き支援していきます。

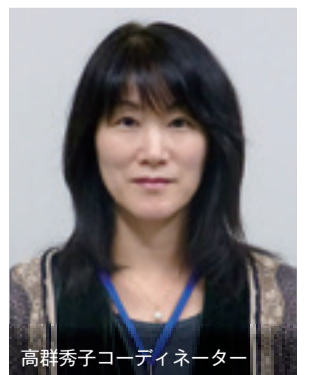
身近な相談相手として コーディネーターを設置

県北広域振興局では、食産業事業者や農業者・漁業者などの身近な相談相手として、「北いわて食産業コーディネーター」を配置しています。本局経営企画部の又城圭コーディネーターは平成26年度から、二戸地域振興センターの高群秀子コーディネーターは平成28年度から務めており、食産業に関する知識や経験を生かして、事業者の状況やニーズの把握、催事（イベント）への出展勧奨、各種支援制度等の情報提供、食材や事業者の情報発信などの業務を行っています。



又城圭コーディネーター

又城圭コーディネーターは地元久慈市出身で、観光物産の仕事に携わった経験を生かし、就任後は、久慈管内の漁協女性部による



高群秀子コーディネーター

料理選手権」北三陸いわて「浜料理のつどい」の審査員や、久慈市の「食育教室」の講師紹介などを担当。また、二戸広域観光物産センター「なにやーと」からの依頼で、普代村の製菓業者を紹介し、同センターの品揃え強化にもひと役買っています。

さらに対外的には、管内の食材を首都圏でPRする活動も展開中。今年3月、東京都内の料理家たちと共同で、管内の食材を使った料理のイベントを開催する予定です。

今後も「北いわて食産業コーディネーター」は、地域の食産業の相談役・まとめ役・つなぎ役として活動していきます。



又城圭コーディネーターの仲介により「なにやーと」で販売されている、「こんぶバー」と、「コン・ブッセ」

県北広域トピックス 2017

県民の声を県政に生かす。希望郷いわて

ペットも家族の一員。飼い主の義務を守りましょう。

犬の登録・予防注射の徹底を

保健所では

保護した動物の

譲渡を行っています

犬や猫をはじめとするペットは、かけがえのない「家族の一員」。愛情を持って飼育するのはもちろん「飼い主の責任」をしっかりと果たす義務があります。

特に犬は、法律で市町村への登録と狂犬病の予防注射が義務づけられており、県条例によって放し飼いが禁止されています。県北地域では、狂犬病予防注射実施率が県内平均を下回っているほか、保健所が放浪犬を保護しても飼い主から保健所への連絡がないために、飼い主のもとに返還されないことも多いなど、飼い主の義務や守るべきルールが徹底されていないという課題があります。

一方で、保健所が保護した犬や猫が新たな飼い主に譲渡されることも増えており、動物を大切に

する機運も高まっています。大切なペットの幸せのためにも「飼い主の責任」を改めて認識し、人と動物が共生する社会を実現していきましょう。



犬を飼ったら…

- ・必ず犬の登録・狂犬病予防注射をしましょう
- ・犬の放し飼いは禁止です
- ・犬が逃げたしまったら保健所にすぐに連絡をしましょう

犬や猫を飼うなら…

- ・最後まで責任を持って飼いましょ
- ・保護された動物の譲渡を希望される方は保健所にご連絡ください



保健所から譲渡された動物たち

【問い合わせ先】

県北広域振興局保健福祉環境部 環境衛生課

TEL 0194-53-4987

二戸保健福祉環境センター

環境衛生課

TEL 0195-23-9202

新たな担い手の確保で農業を活性化

新規就農者を応援します

相談から技術指導まで 新規就農者をサポート



さまざま。平成28年度には久慈管内を対象に、就農を考えている人に、体験研修の機会を提供する「受け入れ支援」を実施しました。



農業現場視察研修の様子

県北地域の基幹産業のひとつである農業。高齢化や過疎化による担い手不足の解消や、農業振興による地域の活性化を後押しするため、北いわての関係機関が一体となって、就農希望者や新規就農者をサポートする幅広い支援を行っています。

その内容は、就農希望者への情報提供、研修・体験会の実施などの就農準備から、技術指導といった就農後のサポートまで

【問い合わせ先】

県北広域振興局農政部農政調整課

TEL 0194-53-4983

岩手県が進める「いわて県民計画」第3期アクションプランには岩手県民の声が反映されています。暮らしを健やかに、産業を振興し、観光・交流を促進する施策が動き出しています。その概要をお知らせします。

農村景観をこれからも守るために

「多面的機能支払交付金」の活用を

農村集落の環境維持と 資源向上を支える交付金



近年、農村地域の過疎化、高齢化・後継者不足により、これまで集落が守ってきた農地・水路などの地域資源の維持が難しくなっています。このため、集落で行う草刈りや水路の泥上げなどの共同活動に対し交付金が支払われる制度が「多面的機能支払交付金」です。

草刈りや水路の清掃など基礎的な保全活動に使える「農地維持支払」と、水路のひび割れ補修、植栽活動、生き物調査などに使うことができる「資源向上支払」があり、県北地域では、現在131の組織が活用しています。



水路の泥上げの様子

中には、地域の宝である桜並木の剪定や、遊休農地を活用した小学生の米づくり体験・収穫祭の開催などによる世代間交流に取り組んでいる活動組織もあります。

交付金は、原則5年間活動する農業者等による組織に交付され、交付単価は、地目や活動内容(例:田の農地維持は10aあたり3千円など)によって異なります。美しい農村景観や農地・水路などの地域資源を維持し、地域のつながりをこれからも守っていくために、あなたの地域でもこの制度を活用して地域ぐるみの共同活動に取り組んでみませんか。

【問い合わせ先】

県北広域振興局農政部農村整備室

TEL 0194-53-4988

二戸農林振興センター農村整備室

TEL 0195-23-9207



遊休農地を利用した小学生の米づくり体験

災害に強い道路ネットワークの形成へ

「復興支援道路」の改良工事が完了

軽米町駒板地区の一般国道340号をより安全・快適に

県内陸部を南北に縦断する一般国道340号は、復興支援道路として震災復興にかかわる物流を担い、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを形成する重要路線。地域の主要産業である養鶏業を支える物流路線でもあり、また生活道路としての役割も担っています。

しかし、軽米町駒板地区を通る区間は急カーブで見通しが悪く、幅も狭いため、車のスムーズな走行を妨げていました。特に冬は、路面の凍結や除雪で道の両脇に雪がたまることによる幅員の減少で交通の難所となり、事故が度々発生。歩道も未整備だったため、生活道路として利用する地域住民の安全な生活を脅かしていました。



工事完了後の駒板地区国道340号線



駒板地区改良工事の概要

このことから、平成27年度から急カーブをはじめとする危険箇所の解消や幅員を拡張する改良工事を行ってきましたが、いよいよこの3月に完成します。

集落のそばを通っていた道路を東側に回避し、ほぼ直線にしたことで走行性が向上したほか、幅員を拡張し除雪時の堆雪スペースを確保しました。また、拡張した路肩に歩行スペースを確保したことにより、集落から集会施設まで、安全に行き来することが可能になり、地域住民にとってもより安全で利便な道路環境となります。

【問い合わせ先】
二戸土木センター
TEL 0195-23-92009

久慈地域の美しい森林を未来へ

「林業・木材産業新規就業対策セミナー in 久慈」開催

森林を守り継ぐ担い手の確保・育成について考えるセミナー

面積の多くを森林が占める岩手県。中でも久慈地域は、住宅の梁などに利用されるアカマツの産地であり、また、しいたけの原木や木炭の原料として使われる広葉樹の割合が多いのが特色となっています。

そんな久慈地域の森林を守るためには、林業・木材産業の振興が必須。しかし高齢化や過疎化による人手不足、後継者不足が長年の課題となっており、新規就業者の確保・育成を図るため、企業・団体の受け入れ体制の強化が必要とされています。

そうした背景から、県北広域振興局では、平成28年12月16日に企業・団体向けのセミナー「林業・木材産業就業対策セミナー in 久慈」を開催。久慈地域の林業・木材関連企業の採用担当



就職に関する専門家による講演



セミナーでの質疑応答の様子

者など36人が参加しました。講師は、高校の進路指導担当教諭、職業安定所の指導官、毎年新卒者を採用している木材関連会社の代表者。それぞれの視点で林業・木材産業への就業確保について語りました。

参加者からは、「求職者が就職先を選ぶポイント」「高校生の就職スケジュール」「新卒者の教育体制について」など積極的に質問が寄せられ、アンケートでは7割の参加者が「とても参考になった」と回答。また全員が次回のセミナー開催を希望しました。

今後も関係機関と協力しながら、より進化した取組を行う予定です。

【問い合わせ先】
県北広域振興局林務部林業振興課
TEL 0194-53-4984

「つくり育てる漁業」を推進

漁場整備で地域水産産を後押し

「久喜東漁場」のウニ、アワビ増殖場を整備



増殖場に育つウニ・アワビ

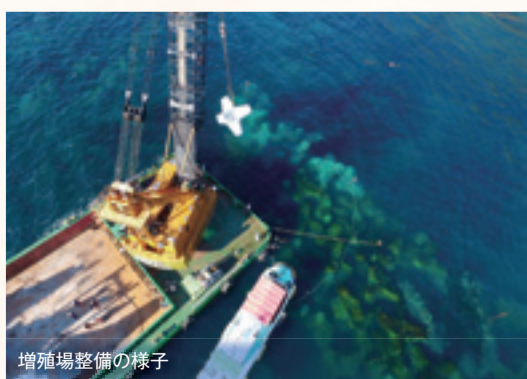
県では、「つくり育てる漁業」の更なる推進を図るため、水産環境の整備に取り組んでいます。平成29年1月には、久慈市久喜東漁場の増殖場造成工事が完了。この地域の主要な水産物の1つであるウニ、アワビの生産力向上が期待されています。

久喜東漁場はウニ、アワビの餌場となる天然の岩礁地帯があり、採介藻漁業（船上から貝類や海藻などを採る漁業）が盛ん。これまで継続的にウニ、アワビの種苗放流を積極的に行い「つくり育てる」漁業を実践してきました。しかし水深が深く餌となる海藻類が育ちにくいポイントが所々にあり、漁獲効率が悪いことが課題でした。



そこで深場に異形ブロック（消波ブロック）を積み重ねて水深を浅くし、餌場となる増殖場を人工的に造成する事業が平成21年度にスタート。東日本大震災津波の影響で一時的に中断しましたが、今年1月までに計画した6.9haの整備が完了しました。使われた異形ブロックは大きいもので重さ60t、高さ約5m。数は960個以上に及びました。

この増殖場の造成により、ウニ、アワビの生産量は年間でおよそ6t増えることが見込まれています。また港と漁場の距離が縮まったことによる生産コストの軽減のほか、密漁対策などの管理の負担軽減も期待されます。



増殖場整備の様子

【問い合わせ先】
県北広域振興局水産部漁港漁村課
TEL 0194-53-4985

三陸沿岸道路等の工事状況

東日本大震災からの「復興道路」として位置づけられる三陸沿岸道路(359km)と、「復興支援道路」宮古盛岡横断道路(66km)・東北横断自動車道釜石秋田線(釜石～花巻、80km)の工事進捗状況をお知らせします。平成32年度には久慈市と八戸市が三陸沿岸道路で繋がることとなり、経済や交流連携の活発化に大きな期待が寄せられています。開通に合わせて、久慈地域の4市町村では、広域の道の駅の整備に向け動き出しています。



久慈地域の状況

写真① 洋野階上道路(23.0km)
開通予定:H32年度※2



終点側より(仮)高家川橋を望む

写真② 久慈北道路(7.4km)
開通予定:H30年度※1、※2



終点側より(仮)夏井高架橋を望む

久慈道路(3.2km)
H5年度開通済み

写真③ 野田久慈道路(25.0km)
開通予定:未定



起点側より(仮)野田ICを望む

普代道路(4.2km)
H25年度開通済み

写真④ 尾肝要普代道路(8.0km)
開通予定:H32年度



(仮)柏木平第二トンネル上部より起点側((仮)柏木平第一トンネル)を望む

アンケート・プレゼント

アンケートにお答えいただいた皆さまの中から、抽選で合計10名様にプレゼント!

- (1) 記事はわかりやすかったですか? (番号で回答)
 ①非常にわかりやすい ②わかりやすい ③普通 ④わかりにくい
 ⑤非常にわかりにくい
- (2) 今回の記事に興味を持ったものは何ですか? (番号で回答・複数回答可)
 ①特集1 震災復興、ともしつくる 新しいまち。
 ②特集2 台風10号の被害から復旧へ向け全力で取組中
 ③特集3 食産業界を盛り上げて北いわてをパワーアップ
 ④県北広域トピックス2017 ⑤三陸沿岸道路等の工事状況
- (3) 本誌へのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

※ 回答は、右の二次元バーコードを読み込んで応募フォームからご応募ください。なお、はがき・FAXでもご応募いただけますので、住所・氏名・年齢・性別・電話番号・ご希望商品のアルファベット記号(AまたはB)をお書きの上、お送りください。なお、当選発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。



スマートフォン用



携帯用

A 大西ファーム(株) 詰め合わせ



無添加無着色、こだわりのレシピで作られた「ドライトマト オリーブオイル漬」「バーニャカウダ」「焼きくるみのはちみつ漬け」をセットにてお届けします。

【問】0195-23-4515

B 総合農舎山形村 詰め合わせ



北上高地の緑の牧場で育ったいわて短角牛の「厚切りビーフシチュー」「すじ肉ごろごろカレー」「ごはんの素」のレトルト3点セットをお届けします。

【問】0194-75-2929

【送り先】

はがき 〒028-8042 久慈市八日町1-1

県北広域振興局「北いわて最前線アンケート」係

FAX 0194-53-1720 電子メール BK0001@pref.iwate.jp

【締切】平成29年3月27日(月)